

第4次産業革命・Society5.0

DXを語る前に何を見ておくべきか

医療DX、働き方改革、業務効率化。これらはセツトで語られることが多いキーワードですが、「DXは業務効率化の手段」「業務の効率化で労働時間が短くなることが働き方改革」という理解で止まつてはいないでしょうか。また、DXとIT化の違いを説明できるでしょうか。医療経営士や病院経営にかかる立場として、DX推進の役割を担う場面は今後さらに増えています。本連載ではまず、DXが生まれた背景や社会の大きな流れを俯瞰し、判断軸を整理することから始めます。

産業革命は社会の前提を変えてきた

私たちは現在、「第4次産業革命」の真っ只中にいます(図1)。産業革命と聞くと、学生時代に習った第1次産業革命を思い出す方も多いでしょう。改革の推進力となつたのは蒸気機関でした。水を沸騰させて蒸気を生み、その膨張エネルギーを動力として利用することで、人力では不可能だった生産や輸送が可能になりました。工場は機械化により生産性が向上し、蒸気船や機関車の登場で流通や貿易が拡大、産業構造や人々の暮らしは一変しました。

第4次産業革命とDX

現在進行中の第4次産業革命の中心はAI、ロボット、センサー

Society5.0が示す未来像

第4次産業革命が2016年の

第2次産業革命のキーテクノロジーは電気、第3次はコンピュータとインターネットです。いずれの革命でも技術の進展は単なる効率化にとどまらず、「社会の前提」そのものを書き換えてきました。その過程で多くの仕事が失われる一方、新しい産業や職業も生まれています(話はそれますが、それぞれの革命の時間的感覚が短くなつてきてるのも気になります。第5次ももしかしたら、私たちが乗り越えることになるかもしません)。

DXとは、こうした技術を用いて業務を効率化すること自体ではなく、社会や組織のあり方を変えていく取り組みです。結果的に効率化される部分も多いかもしれません

せんが、目的ではありません。



金城 悠貴 (きんじょう・ゆうき)

済生会神奈川県病院経営戦略課長／帝京科学大学、関東学院大学大学院非常勤講師／神奈川研究会事務局／医療経営士2級